

喜多流 自主公演

令和元年十一月

令和元年 11月24日(日)

12:00 開演 (11:00 開場)

十四世喜多六平太記念能楽堂

料金:全席指定(税込)

S席 9,000円 A席 8,000円 B席 7,000円

C席(1階栈敷席) 6,500円 D席(2階席) 6,500円

学生席(2階席) 2,500円 (25歳以下、要学生証提示)

- ・午前11時15分より、本舞台にて当日の演目の解説をいたします。お気軽にご参加ください。
- ・当日券をご用意できる場合は午前10時45分より発売いたします。

主催：公益財団法人 十四世六平太記念財団
 協力：喜多流職分会
 後援：品川区、品川区教育委員会

浮 雨
 舟 月
 友枝 粟谷
 雄 人 明 生

チケット予約購入のご案内

インターネット

喜多能楽堂ホームページ <http://kita-noh.com/>
 (24時間対応、要登録・無料)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。

② 喜多能楽堂事務局 窓口

クレジットカードでお支払いの上(ホームページでのweb決済)、ご予約の際に画面に表示された番号を窓口にご提示いただき、チケットをお受取りください。現金でのお支払いはできません。

電話予約

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
 (午前10:00～午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際お伝えする番号をレジにご提示の上、チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

② 郵送

チケット代金と手数料を指定の銀行口座にお振込みください。入金確認後、簡易書留にてチケットをお届けいたします。

③ 喜多能楽堂事務局 窓口

ご予約の際お伝えした番号を窓口にご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金のみとなります。

窓口

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
 (午前10:00～午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

お支払いは現金のみとなります。

※お受取り・お支払い方法によって別途手数料がかかります。ご予約の際ご案内いたします。
 ※平成31年度公演の後半5回分は発売中です。
 ※ご予約いただいたチケットのキャンセル、変更はできません。

ご注意

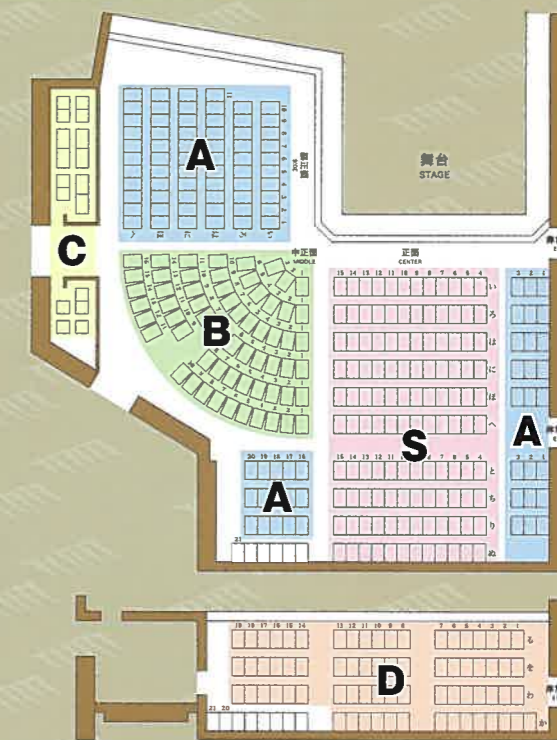
- ・開演中の途中入場はお断りいたします。
- ・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
- ・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
- ・許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はお断りいたします。
- ・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光の出る電子機器のご利用はお断りいたします。
- ・ロビー・見所でのご飲食はできません。2階ラウンジをご利用ください。
- ・喜多能楽堂は全館禁煙です。屋外喫煙所をご利用ください。
- ・お席を離れる場合は貴重品、お手回り品にご注意ください。盗難・紛失についての責任は負いかねます。コインロッカーもご利用ください。
- ・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

喜多流自主公演年間優待券

5枚綴り 35,000円

- ◆ご希望のどの席種でもお選びいただけるお得な年間優待券です。
- ◆お求めは喜多能楽堂事務局まで。各喜多流職分でも承ります。
- ◆ご観能の際は別途、座席指定券をご予約ください。
 - ・追加料金はかかりません。
 - ・ご予約は、インターネット、電話、窓口で承ります。
 - ・年間優待券のみでの観能はできません。
 - ・ご入場の際は、年間優待券と座席指定券をご提示いただきます。
- ◆ご利用は、表記年度中(4月～3月)の喜多流自主公演のみ有効です。青年能には使用できません。

自主公演観客席御案内



S席	9,000円	C席(1階栈敷席)	6,500円
A席	8,000円	D席(2階席)	6,500円
B席	7,000円	学生席(2階席)	2,500円

会場案内図



JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅より徒歩7分。目黒駅西口よりドレメ通りを直進。杉野学園体育館手前を左に入る。
 ※当能楽堂は駐車場施設がございませんので、お車でのご来場はご遠慮願います。

十四世喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9

TEL: 03-3491-8813 FAX: 03-3491-8999

喜多能楽堂ホームページ: <http://kita-noh.com/>

能

シテッレ・姥 内田成信

後シテ・宮人 栗谷明生

雨月

ワキ・西行法師 宝生欣哉

アイ・住吉明神の末社 三宅右矩

大鼓 國川 純 太鼓 大川典良
小鼓 曾和正博 笛 槻宅 聡

後見 塩津哲生
高林呻二

地謡 谷 友矩 栗谷充雄
塩津圭介 出雲康雅
大島輝久 栗谷能夫
佐藤 陽 金子敬一郎

休憩(二十分)

狂言

口真似

シテ・太郎冠者 三宅右矩

アド・主人 金田弘明
小アド・何某 高澤祐介

仕舞

殺生石

栗谷浩之

地謡 佐藤 陽
金子敬一郎
大島政允
大島輝久

休憩(十分)

能

後シテ・浮舟の霊 友枝雄人
前シテ・里人

浮舟

ワキ・僧 大日方 寛

アイ・宇治の者 高澤祐介

大鼓 大倉慶乃助
小鼓 森 貴史 笛 小野寺竜一

後見 香川靖嗣
谷 大作

地謡 佐藤寛泰 狩野了一
佐々木多門 中村邦生
栗谷浩之 大村 定
友枝真也 長島 茂

附祝言

終了予定時刻 四時十分頃

雨月(うげつ)

嵯峨野の奥に住んでいる西行法師が、摂津の住吉明神に参詣し、あちらこちらを見歩いて日が暮れたので、一夜の宿を借りようと近辺の家に立ち寄る。そこに老夫婦が住んでいるが、老翁は雨音を楽しまないので軒を葺こうと言い、姥は月を愛するために、屋根の板間も惜しいと軒を葺かずにおこうと言ってお互い譲らないでいた。このことで老翁は西行法師に和歌の下の句「賤が軒端を葺きぞ煩ふ」に上の句を継げば宿を貸そうと申し出る。そして西行法師は「月は洩れ 雨は溜まれと とにかくに」上の句に付ける。感心した老翁は西行法師を招き入れる。夫婦は碁をうったり、落葉をかき集めて秋の名残を惜しんだりしたが、夜が更けたので寝ようと姿を消した。(中入)やがて住吉明神が乗り移った宮人が、祝詞をあげ、和歌の徳を讀え舞を舞うのだった。

(約一〇〇分)

口真似(くちまね)

主人がお酒をもらったので、お酒の相手探しを太郎冠者に命ずる。太郎冠者は顔見知りの人を訪ね、相手をしてほしいと言い、主人と面識がないというのを無理に連れて来る。主人がお客に会うと、有名な酒乱の人であった。無理矢理に連れて来た手前、丁重にお断りしたので、主人は太郎冠者に自分の言う通りに行動するように命ずる。しかし太郎冠者は、主人の物まねをしると謂われたと勘違いをし、ちよつとした仕草や振る舞いを真似するので、怒った主人が太郎冠者を打つ。すると太郎冠者はお客を…。

(約三十分)

浮舟(うきふね)

大和の初瀬から都に向かう僧が、宇治の里で舟に乗った女に出会う。その女は昔、光源氏の子である薫中将に囲われ、この地に住んでいた浮舟という者がいたが、朱雀院の子の匂宮の誘いで、深い契りを結んでしまい、しかしどちらも忘れられないことを悩み、死にたいと嘆いた末に、浮舟は行方不明になってしまったそうだと語る。そして語り終えた女は、自分は小野の里に住む者といって姿を消す。(中入)小野の里で読経をする僧の前に浮舟の亡霊が現れる。その亡霊は恋の板挟みになって、宇治川に身を投げようとして物怪に憑かれたが、横川の僧都に助けられた顛末を語り、重ねての回向を受けて成仏ができると喜び、夜明とともに消え失せた。

(約八十五分)

令和元年十二月自主公演番組予告

令和元年十二月十五日(日)正午始

十四世喜多六平太記念能楽堂

金礼 栗谷能夫
班女 金子敬一郎